

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1174900553		
法人名	有限会社ひまわりの家		
事業所名	ひまわりの家		
所在地	埼玉県秩父市山田2699		
自己評価作成日	令和5年12月26日	評価結果市町村受理日	令和6年3月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号
訪問調査日	令和6年2月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ご自分の家で過ごされている雰囲気をお大切にしております。入居者様のご家族、地域の方々々が気軽に立ち寄り頂ける施設を心掛ける様にしてあります。コロナが5類に移行されてからは、慰問の方々を招き、カラオケ・踊り等を披露して頂いたり、レクリエーションでは、職員と一緒にゲーム大会・カレンダー作成・ドライブ・喫茶店等を行い、毎日を楽しんで送って頂ける様に工夫を凝らしております。清潔保持の為に、週3回の入浴を行い、身体確認を行い身体の異変に早く気づけるよう心掛けております。また、訪問歯科を月3回行い、口腔ケア、口の状態をみて頂き健康管理に努めております。入居者皆さん真剣、ご家族の皆様が、安心して生活を送って頂ける様に、色々なご意見を頂き参考にしながら取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

「日々の暮らしの中で生きいきと輝きをもってその人らしく生活できるよう、質の良い介護支援を・・・」の理念を基に、1人ひとりの利用者に寄り添い、自宅の時の生活リズムを継続し、趣味や出来ることは行っている。利用者や職員が共に歩む支援が実践されている。
 ・運営推進会議は、離れた部屋を利用して年6回の運営推進会議が多方面の参加を得て対面で開催され、利用者や事業所の状況報告と共に、地域情報の共有、意見交換や提案などが行われ、運営に活かされている。
 ・目標達成計画は、週3回の入浴を基本とし、必要な場合は随時入浴ができ、利用者の体調等により、湯船に浸かっていたく全身浴、シャワー浴、足湯を選択していただくなど、利用者の体に負担の無い入浴を楽しんでいただいていることと、年2回の避難訓練が行われ、全職員に災害時の役割分担が定められ、参加いただいた地域の方には、見守りや誘導に協力をいただくなど、目標達成への取り組みが伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	職員全員で、理念を頭に入れながら常に意識をして、入居者様に寄り添い、家庭的、地域との交流を目標にして、理念の実践に努めております。	「日々の暮らしの中で生きいきと輝きをもってその人らしく生活できるよう質の良い介護……」の理念を基に、1人ひとりの利用者に寄り添い、自宅の時の生活リズムを継続し、趣味や出来ることは行っていたが、利用者職員が共に歩む支援が実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアを積極的に受け入れ行事にお招きしたり、イベントへの参加をして地域との関わりを持てる様にしています。消防訓練にも地域の方々に協力を得ています。	感染の状況を見ながら、近隣の散歩や山田祭りの行列見学に行かれたり、踊りのボランティアの来訪をいただくなど、楽しみが復活しつつある。また、地域の方から認知症や施設利用の相談を受けられるなど、地域とお付き合いが継続されるように、努められている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では、地区の皆様に参加して頂き、認知症を理解して頂ける様に研修資料を提供して、地域と共に深める取り組みを行っております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の毎月の行事、入居者様の概況やヒヤリハット、事故報告を行い、今後どのように取り組んでいったら良いか、意見交換を行っております。	運営推進会議は、離れた部屋を利用して、年6回の運営推進会議が家族を含む多方面の参加を得て、対面で開催され、利用者事業所の状況報告と共に、地域情報の共有、意見交換や提案などが行われ、運営に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、市役所職員の出席を必ず促し、相談、意見を頂戴しています。また市役所の窓口を訪問して、困りごと、問題解決に向け意見を聞いております。また、生活保護の入居の相談等、今後に向けて協力関係を築いております。	運営推進会議には、市の担当課と地域包括支援センターの参加を得ている。また、利用者や事業所の相談ごとや支援制度などでは、市の担当課へ出向いてアドバイスをもらうなど、良好な関係が継続されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロに向けた介護を行う為に、職員間の連携と研修会を行い理解を深めている。スピーチロックにも特に注意を払う様に心掛けております。現在は、帰宅願望の強い方がいらっしゃる為に、表玄関のみ日中も施錠しております。	身体拘束適正化委員会が3か月に1回、内部研修が2か月に1回行われ、職員の理解を深められている。スピーチロックだけでなく日常の言葉使いにも注意を払い、音に敏感な方もおられるので、センサーマットを使用しないなど、身体拘束を必要としない支援に取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止の徹底に向けて、勉強会を行い虐待の理解と情報共有に努めております。職員間の連携を密にしなが、気になった事は話し合う様に努めております。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様、ご家族様の状況により、個々の必要性について話し合いの場を設ける様にしております。職員は、日常自立支援事業や成年後見制度について理解を深める様に、時間を設け勉強会を行うようにしております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはご家族様に、施設のケアに対する考え方や取り組み、また今後起こり得るリスクについて説明を行い、対応可能な事について説明を行っております。改定時は、改定前後を示して同意書を頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	可能な限り入居者様、ご家族様と関りを持ち話しやすい環境を作り、意見、不満をお聞きして改善に努めております。日頃から積極的に対話を行い、ご意見を頂ける様に努めております。	利用者とは日頃の関わりの中で、家族とは再開された対面での面接の折に、意見や要望を伺われており、看取り希望の家族から最後に面会できたことに感謝をされる事例が見受けられるなど、叶えられることは叶えるように努められている。	コロナ禍でも、利用者や家族の思いを、出来るだけ叶えられるように努められています。感染の終息を見据えて、利用者のより楽しいことを見つけ、叶える工夫が期待されます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者も職員と同様に業務に当たっており、その時々や会議の中で意見を聞き、話し合いを行いながら、問題解決に向けて業務を行っております。	2か月に1回、職員会議と内部研修が行われているが、1ユニットで少人数の組織なので、問題が生じた場合は、その都度、職員の意見を聞き、引継ぎや申し送り時にその内容を共有し、対応やリスク回避が図られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に職員の業務の内容を把握して各自が意欲向上に向ける様に、その都度話し合いを行い、早急に対応する様に努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修には、職員全員参加する様に努めております。外部研修は、コロナが第5類に変更になってから、積極的に出席する様に指導しております。知識と理解を深めて業務に生かして頂きたいと考えております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	群市のグループホーム協議会の集まり、研修会、勉強会に参加をし、他の方との交流する機会を設け、同業者と業務の改善に向けて意見交換を行っております。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の話を良く傾聴し、意見を尊重し、要望などをお聞きして、安心して日常生活が送れる様に、職員で協力して信頼関係に努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いに寄り添いながら、困っている事、今まで大変であった事、心身の状態などを傾聴する様にしています。耳を傾け信頼関係を築く事に努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様、ご家族様が今後どのような生活を望んでおられるのか話し合いを良く行い、必要な支援について見極めながら対応しています。他のサービス利用についても対応出来る様に努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様は、人生の先輩であり、敬う気持ちで接しながら生活の中で色々な事を学んでおり、職員が支えられ毎日の生活が出来ていると感じています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と一緒に今後について対話を行い、問題解決しております。日々の暮らしの出来事や気づきの情報を共有して、共に支える関係作りに努めております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に相談を行いながら対応しております。常にご家族や、馴染みの方々に問題が起きない様に対応しております。	家族・友人・知人等の対面での面会が可能となり、利用者が退院したとのことで「顔を見たい」との知人の来訪を受け入れたり、受診の折に家族との外出・外食などに出かけられることを支援するなど、関係継続のための対応が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、入居者同士の関係把握に努め、心身の状態や気分、感情等でその都度変化がみられる為に、注意深く見守り、関係性が上手く行くように調整しております。席等の位置にも気を配り、生活が円滑に送れる様に支援しております。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も施設に訪問され相談されたり、最近の状態を話して頂けたりしていますので、良い関係性が築けていると思われれます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様、ご家族様と良く話し合い、ご要望nを把握する様に努めております。生活を送られる中で、ご本人の些細な変化を見逃さず、表情、態度、言葉を観察し、ご本人に確認を行い、ご本人の希望に添う様にしれ居ります。	朝や帰宅時には必ず職員から声掛けをするなど、コミュニケーションを大切にし、利用者の表情の変化や言葉に注意を払い、日々の支援の中から好きなことや楽しみにされていることを見つけ、出来ることは行っていただくなど、本人本位に努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様、以前のケアマネジャー、かかりつけの病院関係者等より情報を得ています。そして今後の施設でのデイ禍に参考にしております。入居後も、ご本人との何気ない会話から聞き取りを行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り時に全員で情報交換を行っております。生活面、身体的、精神、排泄状況まで共有して、ケアを行っております。出来る事を優先して生活に役立てています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人に合った介護計画を実施する為に、本人、ご家族様、医師、歯科医と話し合いを行ったり、施設では、職員で話し合いモニタリングを行い、情報を把握し、意見を出せる様な話し合いの場を設けています。	職員によるモニタリングを基に、家族の要望や医師の意見も取り入れ、ケアマネジャーにより、褥瘡予防や嚥下能力の維持などにも十分配慮された利用者個々の介護計画が作成されており、職員全員が周知して対処することで、治癒に向かった事例も見受けられる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	当日の些細な事でも、記録に残す様にしております。その中での気づきを今後の介護計画に反映し、質の良い介護サービスに向けております。業務に入る前には、必ず記録を確認する様にしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ひまわり便りを毎月発行し、今月の行事、来月の予定、実践された事、身近にあった出来事を連絡しております。また個々に、体調面や認知症の状態などを電話連絡を行い、状態に応じたサービスが提供出来る様に努めております。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設での楽しみが得られるように2ヶ月に1回慰問者の計画、ドライブ、お誕生会、ゲーム大会などを実践しております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の隣のクリニックに受診。体調により受診出来ない場合は、往診を依頼する事もあります。体調変化により受診を行う時は、ご家族に連絡を行い、受診・同行して頂きます。検査結果は、ご家族と同行して一緒に聞いています。	隣と言ってもよい徒歩圏内に、夜間の緊急対応や往診も可能な協力医療機関があり、職員による通院同行も行われ、歯科も訪問診療があり、特に口腔ケアを継続されることで、最後まで口からの食事摂取に繋がられるなど、安心感のある受診支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設の隣の主治医であるクリニックの看護師と連携を図り、健康について心配な事、分からない事は適切なアドバイスを頂いております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	体調変化時には、本人、ご家族に安心して頂ける様に、状況に応じた緊急な対応が必要になります。常に近隣の病院の相談員とは連絡を密にして、良い関係性を築き色々相談させて頂いております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変時について、常に念頭に置きながらご家族様と本人にとって何が一番良いのかを話し合い、関係者を含め話し合いを行う事が出来る様に連携して取り組んでおります。	入居時に事業所として終末期に出来ることの説明が行われ、重篤化の場合は家族との話し合いを重ね、訪問医と訪問看護師の協力を得て、最適と思われる支援が行われている。時に、看取りを行った利用者家族が1年後にお礼のため来訪されるなど、感謝されることも見受けられる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	いつ何が起きるのかを想定しながら支援を行っております。緊急時のマニュアルを作成し、応急処置が出来る様に定期的な訓練を行なう様にしております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員全員、災害時の任務担当があり、連絡網に従う。常に意識をして自分の役割について見直しております。地域の皆様にも災害訓練には参加を促し協力を頂いております。	年2回の避難訓練が行われ、全職員に災害時の役割分担が定められ、連絡先や避難ルート、集合場所の掲示も行われ、また参加いただいた地域の方には、見守りや誘導に協力を頂いており、備蓄も完備されている。また、ハザードマップにより水害の危険がないことも確認されている。	災害時の職員の役割分担だけでなく、協力の地域の方の役割も明確にされています。災害時は予期せぬ事が生じることも考えられます。災害発生時は落ち着いて適切な行動が取れるように、訓練と振り返りの継続が期待されます。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の個人情報や、プライバシーについて慎重に対応しております。言葉がけについては、接遇の研修を行い入居者様の気持ちを尊重する話し方を心がけております。	他人に知られたくないことは知られないように、聞かれたくないことは聞かれないように、利用者のプライドや羞恥心に配慮されている。また、職員間で利用者のことを話すときは、出来るだけ利用者の名前を出さないようにイニシャルで話すなど、尊厳とプライバシーを守った支援が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを尊重し、ご本人様が自己決定できる様に言葉遣いを行っております。また、ご自分から意見を述べやすい環境作りを行っております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	一人一人の個性を大切にその人らしく生活が送れる様に、個々の状態や思いに配慮しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝食後に、整髪、顔にクリームをつけてご自分で身だしなみを整えております。その日の天候に合わせて職員がアドバイスをしながら、衣類を選んで着て頂いております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事のお手伝いを行って頂ける入居者様が少なくなってきましたが、出来る人に声掛けを行い職員と一緒に野菜の皮むきなどを手伝って頂いております。季節にあった料理を提供し、賑やかに食事が出来る様に心がけております。	管理者により作られた季節を感じてもらうための献立を基に材料を調達し、出来る利用者は準備や後片付けを手伝い、家庭的な料理が提供されている。また、お祭りの赤飯や十五夜の饅頭などのおやつに季節食、敬老の日の行事食なども一緒に作って楽しまれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に応じた食事形態、量、栄養バランスを考えて提供しています。食事、水分摂取量の記録を行い、入居者様の良い方法について話し合う機会を設けております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月に3回訪問歯科を利用し、清潔保持の指導を受け、毎食後口腔ケアを実施。ご自分で行えない方は、支援をして健康管理に努めております。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄状態を把握し、日中はオムツの人はリハビリパンツに替えてトイレ誘導を行う事を徹底しております。夜間帯は、状態によりオムツやポータブルトイレを使用する事を進めております。	日中は、オムツの利用者もリハビリパンツに変え、適切な誘導を行うことでトイレでの排泄を原則とし、夜間は、各人の状況に応じた対応がなされている。オムツ使用の方が適切な支援により、リハビリパンツでトイレ排泄が可能となった改善事例も見受けられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ運動、水分、食事内容で便秘の改善に努めております。それでも改善が図れない時には、主治医に相談をして薬を処方して頂く事もあります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴支援を行っております。また必要な方には、随時入浴して頂いております。冬場は「寒いから大丈夫」との声が出る時もありますが、声掛けを行い入浴して頂く事ができています。また、入浴後は必ず水分補給を行っております。	週3回の入浴を基本とし、必要な場合は随時入浴ができる体制が作られている。また、利用者の体調等により、湯船に浸かっていたく全身浴、シャワー浴、足湯を選択していただくなど、体に負担の無い入浴を楽しんでいただいております。更衣場の温度にも注意が払われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様は、全員眠剤を服用されず、夜間帯は自然に休まれる様にしています。また、個々の生活習慣に合わせて休息出来る様に支援しております。居室の温度調節をこまめに行っております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に主治医と相談しながら服薬しております。必ず入居者様が何の薬を服用しているか職員が把握し、飲み忘れのない様にしております。体調変化にも注意を払いながら行っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今、入居されている方々は、歌を唄う事や踊りの鑑賞が好きです。慰問のボランティアが来られる時は、大変楽しみにしております。趣味、好きな事を把握して運動、洗濯物たたみ、写経などを行っております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の通院の支援を行ったり、月1回のドライブで外出をし、花々を見学して四季の移り変わりを感じて頂いております。天気の良い日は、近所を散歩しております。地域のお祭りに参加され、気分転換を行っております。	日常の散歩や車椅子対応の車も含めて3台に分乗したドライブで季節の花見や紅葉見物、周辺のお寺巡りなどで自然や地域を感じていただき、利用者の気分転換や英気を養うことに繋がられている。また、外出の写真は「ひまわりだより」に掲載し、家族にも伝えられている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様が欲しい物がある時には、ご家族に連絡を行い購入する様にしております。基本的に立て替えなので、個人が現金を持つ事はありません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご本人様より、連絡がしたいとお話があった時には、職員が電話を掛けご家族様に内容を伝え本人と電話を変わる様にしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、季節の花や植物を飾り四季を感じて頂き、ホールには行事の写真を貼り出し、食堂には、入居者様と作成したカレンダーを張り付けております。ホールには、日光が差し込み開放的でゆったりと過ごす事ができております。	生活感を感じられる食堂と季節の変化が眺められる大きい窓のリビングが設けられ、利用者と職員と一緒に作った紙細工のカレンダーや行事の写真などが飾られており、各利用者が思いおもいに過ごしていただける場となっている。清掃も1日3回行われ、清潔に維持されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室を窓際にして、ホール、食堂に自由に行ける様に回廊式になっており、入居者同士が常に談話をしたり、伸び伸びと過ごされております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時は、自宅よりご本人様が使用されていた、家具、布団、テレビ等を持ち込んで頂き使用されております。今までと同じ様な状態で過ごして頂ける工夫をしております。	使い慣れた馴染みの日用品や好みの物などを持ち込んでいただき、落ち着いて過ごせる居室には、大きくて収納力のあるクローゼットがあり、ベッドも壁から離して置き、各利用者の動線を意識した安全な部屋が作られている。また、清掃も行き届き、清潔な居室が維持されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自宅で行っていた事、出来る事を職員と一緒にこなして頂いております。洗濯物をたたんだり、食器の片付け、テーブル拭き等、継続出来る事を見守りながら行って頂いております。		

(別紙4(2))

事業所名: ひまわりの家

目標達成計画

作成日: 令和6年3月8日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	コロナが5類に変更になったが流行していたり、冬になりインフルエンザ流行の為に、面会時間が10分～15分程度、外出もなるべく控えて頂いていた。	今後は、状態を見ながら、家族との外出や本人の意見をお聞きして、一人一人の望まれるケアを行っていきたい。	ご家族との面会時間、外出時間を増やしていく。ご本人様の行いたいと思っている事をレクリエーションに取り入れて楽しんで頂く。	12ヶ月
2	35	年2回の避難訓練は、施設職員と入居者と地域住民の参加で行っていた。職員は、全員参加できていない。	年2回の避難訓練を行っている事を継続しつつ、職員の全員参加が出来る様にし、地域住民の方の多数の参加が出来る様にする。	年1回は、消防署の協力を得て訓練を行い、評価して頂く。地域住民の方々には、管理者より再度協力の依頼を行い大勢の人に参加して頂く。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。